

男女の分け方における課題とは ～性別における無意識の思い込み～



発表の流れ



1

背景、アンケート結果

2

問題提起

3

提案

4

今後に向けて

皆さんはLGBTQ+
を説明できますか？

私たちの問題意識

カミングアウトをしにくい環境がある

カミングアウトをしにくい環境の背景

「LGBTQ+」についてよく知られていない



LGBTQ+の人を「**特別な人**」とされている現状

保護者世代へのアンケート結果



LGBTQ+がセクシュアル・マイノリティ（性的少数者）の総称であることを知っていますか？

1.
「LGBTQ+」とは、セクシュアル・マイノリティ...者）の総称である、ということを知っていますか。
5件の回答



- 知っている
- なんとなく知っている
- 聞いたことはあるが、よく知らない
- 知らない



全ての人が知っていると解答！

保護者世代へのアンケート結果

5人中5人

L（レズビアン）について
十分に説明ができない

5人中4人

Q（クエスチョニング）
について 知らない

100%

+について意味を 知らない



LGBTQ+が
カミングアウトしにくい状態



なぜ保護者世代なのか

カミングアウトする時に
一番近い存在である**両親**に
理解されないのが最も苦しい



だからこそ、
より多くの保護者の方に
知ってもらいたい

提案

→Tシャツの広告

- QRコードを載せる
- 個性的・おしゃれなデザインでプロモーション



LGBTQ+について分かりやすい説明を載せたサイトへ

→SNSを活用

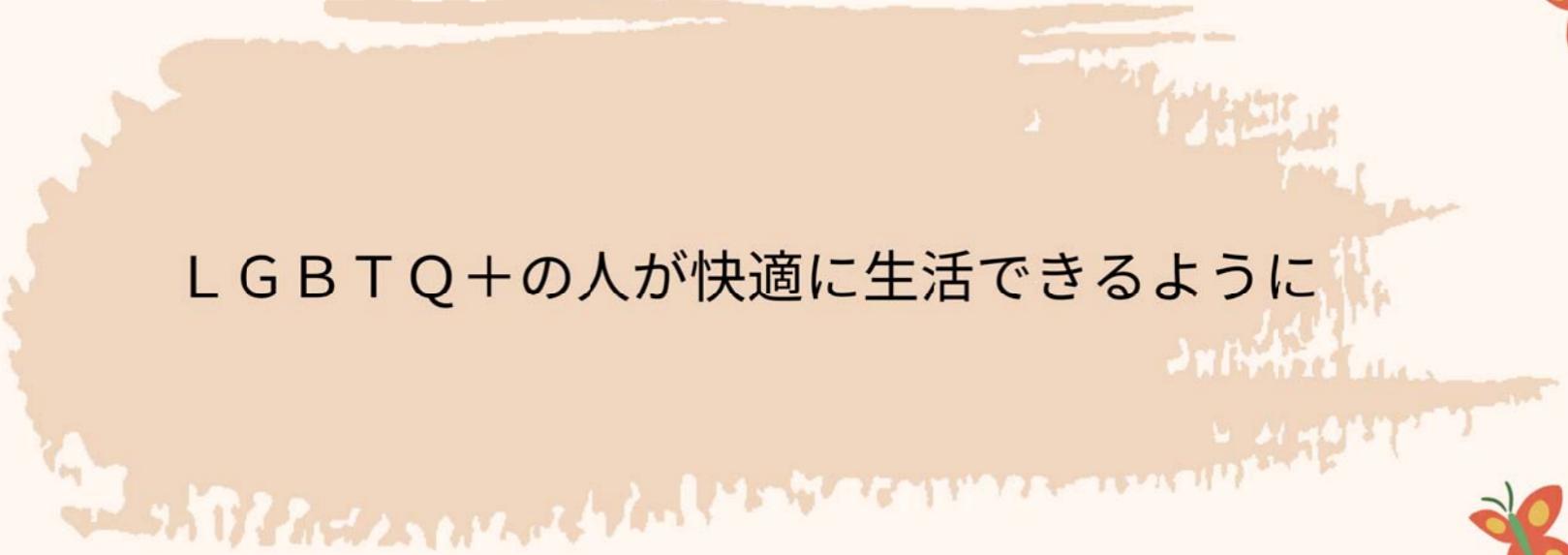
- アンケートでLGBTQ+のことを知ったのが
SNSの人気が多かったので、SNS活用は持続したほうがいい。

Tシャツのアイディアの所以

- Tシャツは人が着るのでデザインが街中で目につきやすい
- 子供のTシャツは両親が購入するので必ず目に入る！



親世代にもLGBTQ+の情報が届く！

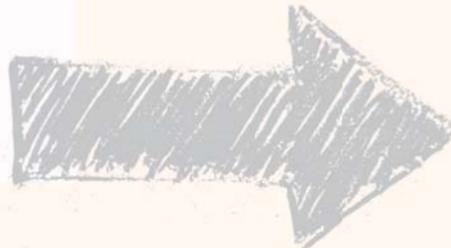


L G B T Q + の人が快適に生活できるように



LGBTQ+も同じ人間

型にはめる必要もなければ
特別扱いする必要もない

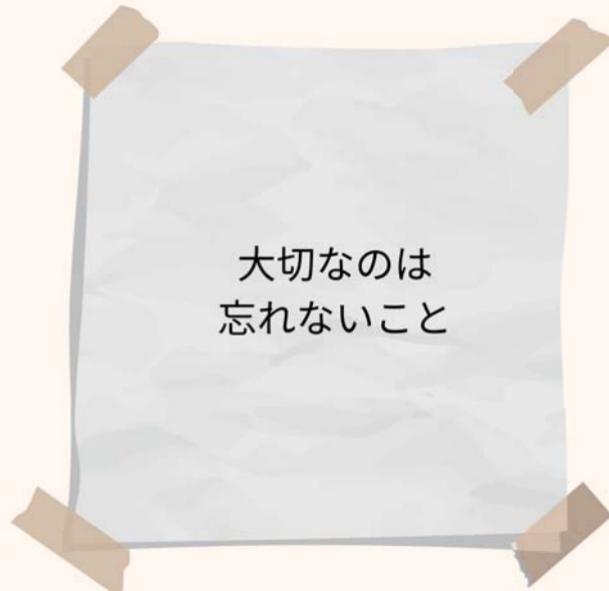


なぜならこの世に
同じ人間はない

「ジェンダー」 「男女の差」



無くなるものではない



大切なのは
忘れないこと



女性の 社会進出



女性の社会進出とは

女性の社会進出とは、かつて男性が中心であった社会に置いて、女性の社会的な活躍が増えていることを指す。

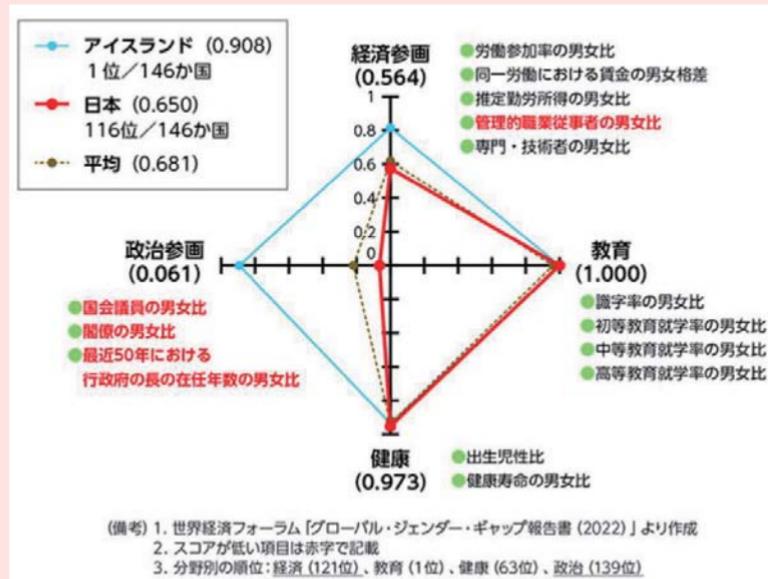


日本における社会進出の現状

ジェンダー・ギャップ指数（GGI）では日本の順位は
156カ国中116位。

特に政治は世界平均を大きく下回るスコア

- 議会に占める女性の割合は9.9%
- 大臣職における女性の割合も10%
- 女性総理大臣はこれまで1人もいない



内閣府男女共同参画局総務課「ジェンダー・ギャップ指数2022」
https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2022/202208/202208_07.html

ESG Times
世界で進む女性の社会進出！なぜ日本は遅れているのか？
<https://esg-times.com/women-social-advancement/>

日本における社会進出が遅れている理由

都議会女性議員の方にご協力いただきました！

Q.日本で管理職など組織の「長」の立場を担う女性が少ない理由・背景には、何があると思いますか？

- ジェンダー不平等の社会であることが大きい
- 例えば、男性の有償労働時間が圧倒的に長く、女性は有償労働と無償労働(家事や介護、育児など)を合わせると男性よりも労働時間が長いことがあげられる
→「ワンオペ」は当然ということにつながっている

Q.これらの状況を改善していくうえで、何が必要だと感じますか？

- 性別にかかわりなく労働時間を減らしていくことが重要
- 男女の賃金格差を是正していくことも重要であり女性の平均給与は男性の半分
- 家計でも仕事でも「補助」として扱われ、働く女性の過半数が非正規雇用
→経済的自立は女性が可能性を発揮し、自分らしく生きていくうえで不可欠であり、ジェンダー平等の土台となる

女性の育児と仕事の両立の難しさ

女性の社会進出を妨げる理由

テーマ

女性の社会
進出

課題

仕事と育児の
両立が難しい

改善策

保育サービス
の充実

3世帯型 保育園

保育園

×

高齢者

いろんな年代の人が子供を預かる家庭を通して、交流していく場

複合家族といった昭和の「サザエさん」の大家族をイメージした保育園



なぜ保育園なのか

待機児童の減少

(1) 保育所等利用待機児童数の推移

区分	待機児童数（人）					対前年増減（人）	
	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳以上		
平成 29 年	8,586	2,284	4,498	1,446	313	45	+120
平成 30 年	5,414	1,523	2,790	855	231	15	△3,172
平成 31 年	3,690	755	2,214	544	158	19	△1,724
令和 2 年	2,343	389	1,365	506	65	18	△1,347
令和 3 年	969	80	681	177	30	1	△1,374
令和 4 年	300	34	190	67	7	2	△669

(注) 各年 4 月現在

保育園の質の向上が求められている

保育園を考える親の会の顧問
普光院亜紀さん

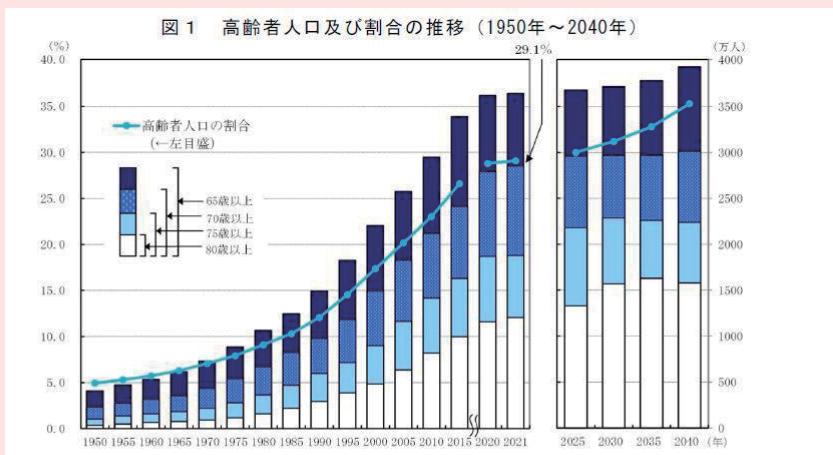
「急な整備により保育環境が犠牲になっている施設もある。都は今後、受け皿整備の予算を保育士配置など『質』に振り分けていくべきだ」

親の会には、特に育休明けの1歳児で認可保育所に入れず、やむを得ず認可外施設に預けたり、育休を延長したりしたという声も寄せられている

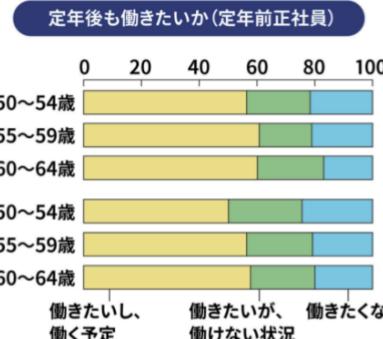
「子どもを安心して預けられる」→ 仕事と育児が両立しやすくなる

なぜ高齢者なのか

- 高齢者の人口増加
- 2021年では総人口を占める高齢者人口の割合は29.1%
- 定年後も8割の人が定年後の就労を希望しているが、就労場所がない



（※調査は今年2月にインターネット上で50～69歳の男女6250人を対象に実施され、年齢層や現在の職の有無を区分して、調査されています。）



※明治安田生活福祉研究所調べを基に作成

3世帯型 保育園

保育園

×

高齢者

質の向上が求められる保育現場に、高齢者的人材を活かそう！



3世帯型 保育園

- 定年退職した元気な高齢者の方が、お給料もらえるボランティア
- 保育士の業務のサポートや、補助的な役割をする
- 例：子供たちの遊び相手、ご飯の準備、子供たちの着替えの補助



メリット

- 保育士の負担が減る
- 大人の目が増える
- 保育ミスの軽減



「子どもを安心して預けられる」 → **仕事と育児が両立可能**

特徴 1：多様な人たちがいる

- 3世帯での交流：子供、親御、高齢者
- 高齢者：子育てしている親のサポート、子供の面倒を見る
- 親御・保育士：運営資金の提供、保育園の業務
- 子供：笑顔を通して、周りの人たちに勇気と存在意義を与える



特徴 2：子供を預ける場所だけではない

- 家族みんなで来てもOK!
- 「一人で子供を面倒見ていると、ストレスが溜まってしまう」
→高齢者の方に相談したり、フォローがあることで、ストレス軽減
→いるだけで、居心地の良い場



特徴3：育児のアシスタント

- 男性の育児貢献が少ない→女性の社会進出を妨げている
- 父親の育児参加における世論調査の結果
育児をしない理由：「育児の仕方が分からぬ」
- 育児経験者の高齢者の方から育児のアドバイス



まとめ

3世帯型保育園というのは、

いろんな年代の人が子供を預かる家庭を通して、
交流していく新しい形の保育園である

